

今日のお話

1. 感染対策のための基礎知識
2. 平時からの感染対策
3. 新型コロナウイルス感染症が発生した施設における
初期対応、感染対策

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 職員の健康チェック

1. 勤務前に健康チェックを行う

すべての職員に対して、勤務前に健康チェックを確実に行う。

どんなに軽い症状であっても「風邪をひいたかも」と思ったら新型コロナウイルス感染症を疑って、**速やかに仕事を休む**。必要に応じて医療機関を受診する。

※新型コロナウイルス感染症の症状の例（実際は多彩で、症状がすべて出るとは限らない）
発熱、咳、のどの痛み、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ、息切れ、食欲低下、頭痛、味覚異常、嗅覚異常

2. 職員の欠員が急遽発生した場合の対応をあらかじめ考えておく

体調不良や濃厚接触者のために職員が業務を休むことになった場合を想定し、**必要不可欠な業務と2週間程度先延ばしにできる業務を整理しておく**。

また、欠員が生じた場合の職員の補充、休養を余儀なくされた職員に対する給与や補償についてもあらかじめ決めておく。

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 職員の対応

1. 勤務中はサージカルマスクを着用する

感染した職員が無症状または症状が出始める前の状態で勤務していることもあり、本人が気づかないうちに感染を広げてしまう可能性がある。職員からの飛沫感染を防ぐ目的で、**勤務中は常にサージカルマスクを着用して業務にあたる。**

2. 人が集まる共有エリアは、いつも風通しを良くしておく

「定期的に換気」ではなく、「**常に少しだけ換気**」を心掛ける。たとえば、食べ物（線香）の匂いが残るようであれば、室内の換気が悪いと言える。

3. 高頻度接触面は清掃・消毒を頻回に行う

施設内で共有している手すり、ドアノブ等の高頻度接触面について、**アルコールや界面活性剤含有のクロスを用いて、1日3回以上の清掃・消毒を行う。**

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 利用者への対応①

1. 介護サービス利用中はサージカルマスクを着用する

無症状の場合や高齢者が軽微な症状を訴えることができない場合がある。

可能であれば介護サービス利用中は常にサージカルマスクを着用するよう求める。

ただし、嘔吐した際に吐物による窒息などのリスクを考慮し、マスク着用への可否は慎重に判断する。

2. 食事時の感染対策に気を配る

マスクを外すタイミングである食事は集団感染発生のリスクである。テーブルにアクリル板を設置したり、距離をあけて食事を取るようにする（2m以上が望ましい）。**食事をとるスペースは風通しをよくしておく。**

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 利用者への対応②

3. 送迎車内は窓を開けて風通しをよくしておく

送迎車内の窓を閉め切ってしまうと、ウイルスを含む小さな飛沫の濃度が高まる。
車内の複数個所の窓を開けて風通しをよくしておく。

4. 施設利用者の情報を整理しておく

施設利用者が体調不良を訴えたり、新型コロナウイルス感染症に罹患したときなど**医療機関を受診する場合に必要な情報を最新の状態に更新しておく**

(氏名、住所、連絡先、かかりつけ医や既往歴・服薬内容、キーパーソンなど)。

ケアマネジャーの連絡先、他の施設を併用利用していないかも確認しておく。

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 施設全体の対応①

1. 職員の体調不良が発生したときの施設内連絡体制の構築

勤務開始時や勤務中に職員が体調不良を感じたときの連絡体制を構築しておく。
併せて、職員の体調不良のために生じた**欠員による業務調整や人員の補充**は誰がどのように行うのかを決めておく。

2. 必要な感染防護具を用意しておく

新型コロナウイルス感染症の対応のために**必要な感染防護具が十分な量を確保できているか**確認しておく。**職員が感染防護具を使用するタイミングや着用・脱衣の方法を習得しているかも**確認する。

3. 近隣施設との情報ネットワークの構築・確認

近隣の医療機関や行政等と新型コロナウイルス感染症に関連する疑問を相談できる関係を構築しておく。

ウィズコロナ時代の平時からの感染対策 施設全体の対応②

4. 新型コロナウイルス感染症に関して、職員への教育を行う

新型コロナウイルス感染症に関する基本的知識や感染対策、施設の体制などを平時から職員へ教育する。

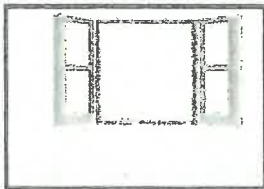
教育コンテンツの例

- 標準予防策やユニバーサルマスク
- 環境清掃のタイミングや方法
- 消毒液の作り方や保管方法
- 換気の方法
- 感染防護具を使用するタイミング
- 感染防護具の着衣、脱衣の方法
- 職員が体調不良を感じたときの連絡先と対応
- 職員の同居家族が新型コロナウイルス感染症にかかったときの連絡先と対応
- 勤務調整の担当者と人員補充の方法
- 施設内で新型コロナウイルス感染症が発生したときのシミュレーション

高齢者施設での感染対策

換気

- 常時換気が望ましい
- 窓は2ヶ所以上開け、空気の流れを作る



手指衛生

- こまめに手を洗う
- “アルコール”でも“石鹸+流水”でも可
- 見た目でも汚れている場合は“石鹸+流水”



ユニバーサルマスク

- 症状がなくてもマスクをつける
- 職員も利用者もマスクをつける
- マスクを使うときは鼻と口をきちんと覆う



環境消毒

- 職員、利用者がよく触れるものは定期的に消毒

